



ニュースレター 2016年 冬号 目次

特集：東日本大震災から5年。

2011年3月11日、高速道路では何が起こったのか。

防災対策はお任せ 「防災管理人」インタビュー

管理事業部 管理事業統括課 石田 慎治

奇跡の復旧に携わった 「復旧仕事人」インタビュー

水戸管理事務所 野間口 法男

コラム：NEXCO東日本 女性社員紹介

水戸管理事務所 山崎 優衣

お知らせ：ドラ割「南房総フリーパス」絶賛好評発売中！

NEXCO東日本からのお知らせ

道路管制センターがリニューアルオープン！

第3回 高速道路豆知識～非常電話編～

編集後記

…P.1

…P.2

…P.3

…P.4

…P.5



特集：東日本大震災から5年。

東日本大震災から5年経過。

東日本大震災により、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。NEXCO東日本では、震災に伴って様々な困難を抱えながらも生活の再建に向けて努力され、また地域の復旧・復興に向けて尽力されている皆さまを、これからも支援してまいります。

今回のニュースレターでは、当時を振り返るとともに、災害からの早期復旧や緊急時の迅速な対応等について、NEXCO東日本（主に関東支社管内）における災害対応力の強化について紹介します。

2011年3月11日、高速道路では何が起こったのか。

NEXCO東日本管内の高速道路は約2,310kmが通行止めとなり、寸断や陥落など約5,800箇所が損傷を受けました。

関東支社管内においても、一部盛土の崩落が発生したほか、路面の亀裂・段差、橋梁の支承やジョイントの損傷、休憩施設の建物や暖房機器の損傷、公共インフラ被害など広範囲かつ大規模な被害を受けました。

地震発生後、NEXCO東日本は非常体制を発令し、直ちに災害対策本部を設置するとともに、状況把握点検や緊急応急復旧を迅速かつ的確に行いました。



▲盛土の崩落（常磐道 水戸IC～那珂IC間）
平成23年3月11日撮影

一刻を争う命の道 震災後、およそ20時間で緊急交通路を確保

初動の段階において、緊急車両や支援・復旧車両の走行のため1車線確保を目指し、震災発生直後から緊急巡回点検や緊急復旧作業に取り掛かり、**命をつなぐ**ために確実に必要な**高速道路の復旧**に全力を注ぎました。

その結果、常磐道の盛土崩落箇所を被害の無い下り線を使って対面通行により車線を確保することや開通を直前に控えた北関東道（太田桐生IC～佐野田沼IC）の開放などにより、約2,310kmの通行止め区間のうち、発災から**約20時間後**の翌日12日午前11時には、警察より**約1,040km**が**緊急交通路として指定**されました。また、併せて約770kmの通行止めを解除することにより東北地方への救援ルートを確認し、救援・支援車両の通行を可能にしました。

この東日本大震災での経験を踏まえた、災害対応や高速道路の復旧に携わった社員について次ページより紹介していきます。



▲3月19日に開通を控えた北関東道を開通1週間前に緊急車両の走行のために開放（太田桐生IC付近）
平成23年3月12日撮影

NEXCO東日本では、東日本大震災や自然災害での対応や経験を踏まえ、これまで以上に災害対応力を強化しています。今回は、関東支社の防災管理人として、災害や大雪時などに中心的な役割を務めている「石田 慎治」より防災対応力の強化について説明します。

防災管理人 管理事業部管理事業統括課 石田 慎治

被災した自分自身だからこそ分かる防災対応力の重要性

2011年3月の東日本大震災時は、常磐道や北関東道を管轄する水戸管理事務所に在籍。実際に被害にあった高速道路の復旧作業に携わり、その後自身の被災体験から学んだことを活かすため、本社の防災・危機管理チームでの職務を経験しました。2014年4月より関東支社の防災管理人として、自衛隊や消防など関係機関との調整や防災基準の見直しなど、防災全般を担当しています。

東日本大震災では、**高速道路は被災地への緊急交通路**として、また**休憩施設は自衛隊や消防など進出部隊の中継基地**として利用されました。しかし、中継基地としての休憩施設は、停電や燃料不足、情報通信手段の途絶、基地としての場所の確保が困難など様々な課題が見受けられました。

それら課題に対し、高速道路会社として役に立てる事がないかという思いが発端となり、その思いを実現させたのが、**常磐道守谷サービスエリア（上り線）の防災拠点化**です。

2014年3月にPasar守谷（上り線）としてリニューアルした同施設には、東日本大震災での課題を解決する防災拠点として、様々な設備が備わっています。停電時に対応する72時間連続運転が可能な**自家発電機の完備**や**太陽光パネルの設置**、燃料不足解消のための**給油所の容量の拡大**、情報通信手段も通信会社の協力により**移動基地局を配備**します。また、開業前から実証訓練や検討会議、合同防災訓練なども行い、関係機関と共同で開発してきたサービスエリアです。



▲常磐道 守谷サービスエリア（上り線）主な防災拠点機能

様々な災害を想定した対応力の強化を目指す

その他にも、災害対応力を強化するために、震災を想定した訓練や施策を行い、災害対応力の強化に努めています。

対策①：災害対策基本法改正に伴う車両移動訓練の実施

⇒緊急車両の通行ルートを迅速に確保するため、滞留車両を排除する訓練

対策②：首都直下地震道路啓開計画

⇒関係機関とともに、都心に向けた八方向の交通路の迅速な確保に向けた検討や訓練を実施

対策③：DIG※の活用（災害図上訓練）

⇒災害発生を想定し、訓練者が各々の立場で「災害対応」を模擬体験

※D=Disaster(災害) I=Imagination(想像力) G=Game(ゲーム)

対策④：地震災害を想定したBCPの見直し

⇒対象災害に対して被害想定・復旧目標時間に基づき定めた、平時の備えや発災後の対応手順を文書化

高速道路は、**被災地に緊急車両や救援物資などを運ぶ「命の道」**としての役割だけではなく、**中継基地としても機能する「命をつなぐ道」**にもなります。そんな大切な事業に携わる石田氏は「組織としてあらゆる災害を想定し、対応できるように組織力のさらなる強化を図り、お客さまの安心・安全を守っていききたい。」と心がけています。

最後に、「我々の高速道路会社の使命は、**緊急車両の通行をいち早く可能にし、被災地への救援活動をつなげていく**ことです。」と語ってくれました。

- 氏名 石田 慎治（いしだ しんじ）
- 出身 埼玉県 東松山市
- 現所属 東日本高速道路株式会社関東支社
管理事業部管理事業統括課課長代理
- 経歴 平成12年4月入社



東日本大震災の発生直後に日本はもちろん、世界のメディアやSNS上で話題となった「奇跡の6日」をご存知でしょうか？「奇跡の6日」とは、東日本大震災で崩落した高速道路をわずか6日で復旧させ、震災で疲弊していた日本を、技術力で元気づけたものです。そして、このニュースは瞬く間に世界中を駆け巡り、日本の高速道路会社の底力に、世界中が驚愕しました。そこで今回は、現場となった常磐道の復旧を最前線で支えた復旧仕事人が当時の想いを語ります。

復旧仕事人 水戸管理事務所 工務担当課長 野間口 法男

「震災の経験を次世代へ」現場を大切に復旧仕事人

常磐道92.5km地点 水戸IC～那珂IC間 崩落現場の写真



緊急点検を実施する野間口氏
(平成23年3月11日撮影)

6
日
後



(平成23年3月17日撮影)

この「奇跡の6日」を実現させた復旧仕事人の野間口氏は、翌日に開催予定の北関東道全線開通イベント機材の運搬中に被災しました。突然の揺れに危険を感じ、路肩に緊急停車をして、揺れが収まるのを待ち、水戸管理事務所へ戻り、防災対策本部を設置しました。

余震が続いていたため、事務所内での会議は危険と判断し、駐車場で会議を実施。すぐに道路の点検を実施するための班編成を組み、緊急点検を開始しました。野間口氏と若手社員がペアになり点検を担当したエリアは、常磐道の水戸IC～日立北ICとなります。今までの災害とはケタ違いで、**約50箇所以上にも及ぶ段差やひび割れが発生**していました。すぐに戻り、本部への連絡をしようと思っていた矢先、上りの92.5kmポスト地点の那珂IC近くの盛土部の崩落現場に遭遇しました。

「見た瞬間に一瞬立ち止まってしまうほど、驚きました。この箇所の復旧が一番時間がかかるだろうと思いました。」と当時を振り返りました。

水戸管理事務所が管理している水戸IC～那珂ICが、被災地への緊急車両の通行として緊急交通路となると判断し、「**ただちに、最低1車線は確保する。**」という目標に向かって、水戸管理事務所員はもとより、NEXCO東日本、グループ会社、関係会社が一丸となって補修作業を行いました。



▲復旧作業を説明する野間口氏



▲高速道路の3段階による災害復旧作業

奇跡が重なった復旧作業

この崩落現場の復旧には、**奇跡的な出来事**が様々起こりました。東日本大震災翌日には工事関係の責任者が現場に集結することができ、**早急に復旧方法を決定**するとともに、工事会社の手配や資機材の確保、現地の復旧作業を開始することが出来ました。

高速道路を復旧させるには、過去の災害経験から学び3段階の作業（左記の図参照）が必要でした。資材や運搬車用の燃料確保は勿論、資材の置き場を確保することも大変ですが、地権者の協力を得て、崩落現場の近くに保管場所を確保することができました。

「この復旧は、**様々な人々の協力により成し得た出来事**だと思います。工事会社が不眠不休で復旧作業にあたり、連帯感や緊張感を皆で共有し、関係者全員が一丸となって取り組めたからこそ、早期の復旧を可能にしたのだと感じています。」

と語ってくれました。今後について、「この東日本大震災での経験を若手社員へ伝えていきたいと思っています。現場での変化に気付く習慣を身につけ、現場でしか経験の出来ないことを大切にしてほしい。」と話す復旧仕事人は、今日も高速道路の安全・安心を守るため、現場の変化に目を光らせています。



- 氏名 野間口 法男 (のまぐち のりお)
- 出身 茨城県 水戸市
- 現所属 東日本高速道路株式会社関東支社 水戸管理事務所工務担当課長
- 経歴 昭和58年4月入社

安心・安全な道路を目指して

「お客さまにとって**高速道路を安全・安心な空間**となるように使命感を持って、仕事に取り組んでいます。これからも被災された方のお力になれるように仕事に励みたいと思います。」

フレッシュ笑顔！お客さまの安全・安心のために、日々奮闘中！

2011年の東日本大震災から今年で5年。NEXCO東日本関東支社管内でも被害の大きかった“水戸管理事務所”で、活躍している入社2年目のフレッシュな女性社員を紹介します。穏やかな雰囲気を持ちつつも、特技は空手と一輪車というアクティブな面を持ちあわせる、**山崎優衣**です。

建設関係の仕事に就けた喜び。そして、コミュニケーションの大切さ

「小さな頃から、地元の“陸橋”や“家”などの建造物に興味がありました。」と語る彼女。その想いはいつしか「**建設関係の仕事に携わりたい。**」という夢に変わり、高校の進路も迷い無く建設関係の学校を選びました。そして、日本の最先端技術が学べる「NEXCO東日本」に入社したのです。

現在、彼女が担当している“工務”という仕事は、高速道路のメンテナンス全般に関わる業務です。日々の仕事で心掛けていることは「高速道路のメンテナンスは、**お客さまの安全と安心を守るため**に重要な仕事で、ミスが起こらないように何事も念入りにチェックすること」と話してくれました。

日頃から経験豊富な先輩や上司との会話を大切にしており、「早く一人前になって、道路の大規模な改良工事などの大きな仕事に携わりたい。」と今後の目標を語ってくれました。



▲切土のり面補強工事の
ふとんかご工の高さ検測をする山崎氏

NEXCO東日本に入社して知った、震災復旧の“凄さ”

彼女が入社して赴任した事務所は、東日本大震災で被害の大きかった常磐道を管理している水戸管理事務所でした。日本の技術力を結集した「奇跡の6日」のことは知っていたものの、実際の復旧作業に携わった人たちと一緒に働き、改めて**“復旧作業の凄さ”**を実感しているそうです。「仕事をするうえで、当時の状況を知る人たちの経験を自分の業務にも活かせるよう、日々のメンテナンス業務に取り組んでいきたい。」と語った彼女は、水戸の若き女性ホープなのです。



紅葉の中郷SA (常磐道・下り線)

お客さまにひと言

ドライブを楽しむために、眠気や疲れを感じたら、サービスエリア・パーキングエリアなどの休憩施設でリフレッシュしてください！私のオススメは、常磐自動車道最後のサービスエリアとなる「中郷SA」です。自然が多く四季も感じられ、ホッと一息つける場所となっています！**お近くを通った際は、是非お立ち寄りください！**



- 氏名 山崎 優衣 (やまざき ゆい)
 ■出身 青森県弘前市
 ■所属 東日本高速道路株式会社
 関東支社
 水戸管理事務所工務担当
 ■経歴 平成26年4月入社

= NEXCO東日本からのお知らせ =



早春の千葉県グルメ・観光を堪能しよう！
「南房総フリーパス」絶賛好評発売中！



※写真はイメージです。



NEXCO東日本関東支社は、お子様にも人気のお出かけスポット「鴨川シーワールド」やお買い物が楽しめる「三井アウトレットパーク木更津」など、魅力溢れる千葉県南房総エリアをめいっぱい楽しんでいただくため、**ドラ割「南房総フリーパス」**を発売します！本ドラ割は、早春の千葉県南房総エリアでの高速道路が定額・乗り降り自由になる**大変お得なフリーパス**となっています。**首都圏から1時間**ちょっとで行ける自然の宝庫へ出かけてみませんか！

ドラ割宿泊特典！

- 特典①** 提携宿泊施設へお電話予約と宿泊＋ドラ割利用で、うれしい特典や優待サービスをご用意！
※宿をインターネットで申込みされた場合は【ドラ割宿泊特典】の対象外です。

海ほたるPA又は市原SA（上下線）で貰えるお得な特典！

- 特典②** 海ほたるPA又は市原SA（上下線）で1,000円以上お買いものいただくと「東京ドイツ村入場ご優待券」や「三井アウトレットパーク木更津スペシャルクーポン引換券」などプレゼント！

東京湾フェリー（久里浜港～金谷港）が20%割引！

- 特典③ 申し込まれたお客さまのみ、東京湾フリース（久里浜港～金谷港）の料金が20%割引

観光やお買い物で使える優待特典

- ご利用特典に掲載している「観光・飲食施設等」で使える特典や優待サービスをご用意！

アンケートにお答えいただくと限定O.U.Oカードプレゼント

- 抽選で15名に「NEXCO東日本創立10周年記念QUOカード3,000円分」をプレゼント

お申込方法

ご利用開始前までにホームページ「ドラぷら」（PC版、モバイル版）よりお申込ください。
※お申込開始は平成28年1月5日（火）から開始です。
ドラぷら： <http://www.driveplaza.com/>

周遊エリア



実施期間	平成28年1月8日（金）～3月28日（月）
有効期間	事前にお申込みされた連続する2日間 （日帰りでのご利用もできます）
対象車種	ETC車限定 普通車または軽自動車等（二輪車含む）
販売価格	普通車 3,000円 軽自動車等 2,400円 ※東京湾アクアラインなど適用区間外の料金は含まれません （別途通常の料金をお支払いいただきます） ※ご利用方法によっては、割高になる可能性もありますので、ご注意ください。
周遊 エリア	館山道：市原IC～富津館山道路：富浦IC 圏央道：市原鶴舞IC～ 東京湾アクアライン連絡道：木更津金田IC

NEXCO東日本からの“お知らせ”

NEXCO東日本管内の道路管制センターがリニューアルオープン！

NEXCO東日本関東支社は、関東地域及び長野県の**高速道路1,345 km**を集中管理し、全国最多の道路事象を扱う『道路管制センター』を**平成28年2月25日（木）**に**リニューアルオープン**します。



▲新道路管制センター全景

▲新道路管制室

【新道路管制センターの主な特徴】

①高い耐震性と防災機能の強化

- ・建物は首都直下地震（M7.3）に対応した、**最高水準の耐震基準**を採用し、さらに道路管制室内に床免震及び機器免震を採用することで**大規模地震時の業務継続が可能**
- ・6.8t級ヘリが離着陸可能な**屋上ヘリポートを設置※全国道路管制で初**
- ・災害時の**ライフライン機能を構築**（電力・飲料水は3日分、下水は5日分）
- ・浸水対策として**建物の嵩上げ**（+1.6m）

②情報提供の高度化

- ・**渋滞の伸縮傾向**（延伸または縮小）を情報板、ハイウェイラジオ及びハイウェイテレホンで提供
- ・SAPA情報ターミナルで複数経路の**所要時間を提供**するとともに、通常表示のほか、**重要事象の強調表示**、IC名称等の**英語表示**に一定時間で自動切替提供
- ・通行止め時に一斉指令放送内容を料金所、コンシェルジュ、お客さまセンター他へテキスト配信しお客さまへの確に伝達

③管制運用の高度化

- ・GPSシステムと車載カメラをバトロールカーに設置し、**正確な位置と状況を把握**して、より迅速かつ的確な対応を実施
- ・全国最多の260件/日にも及び道路事象全てを、よりわかりやすく表示可能な**大型ディスプレイを設置**し、より迅速かつ的確な対応を実施

【新道路管制センターの概要】

- ・**地上3階建**（延床面積約5,700㎡、3階屋上にヘリポート設置）
- ・**全国の道路管制センターで最大規模の大型ディスプレイ**（縦5.5m×横17m）を設置、関東エリアの高速道路の膨大な交通状況が一目瞭然に表示可能。より迅速かつ的確な管制業務により、24時間365日お客さまの安全、安心をサポート。



第3回：高速道路の豆知識～非常電話編～

いつも何気なく利用している高速道路ですが、案外知られていないことが多くあります。このコラムでは、高速道路の豆知識をご紹介します、普段のドライブに少し役立つような情報をお届けしていきます。

高速道路をドライブしていると、必ず見かける非常電話。どのような時に使うのかなど、知らないことが多いはず。今回は、**高速道路にある「非常電話」**をご紹介します。

非常電話は、通常的高速道路では本線上に1 kmおき、トンネル内では200mおき、インターチェンジ、サービスエリア・パーキングエリア、バスストップ、非常駐車帯に設置されています。**非常電話は、受話器を取るだけで道路管制センターにつながります。**連絡を受けた道路管制センターでは、**消防、救急車などの手配を行う**とともに、**交通管理隊**がいち早く現場に急行し、**初期対応**にあたります。

また、外国人や会話の不自由な方にもお使いできるよう、**故障・事故・救急・火災の状況を表示したボタンが設置**されている非常電話もあります。該当するボタンを押すことで状況を伝えることができます。

※ボタンがないタイプでも受話器を上げただけでおおよその位置がわかりますのでご安心ください。会話などが困難な場合は、受話器を叩くなどの合図で緊急事態の発生をお知らせください。



編集後記

「あの日どうしてた?」「俺なんかさー、あそこにいるさー...」それぞれが遭遇したあの経験は、5年経った今でも鮮明に思い出され、それぞれがそのときの状況を身ぶり手ぶりをそえて、しかも不思議と自慢げに話したりしています。今回取材した石田氏、野間口氏も当時の様子を事細かに3時間ぐりと話し、私たちは取材というこも忘れ、すっかり聞き入っていました。

宮城県出身の私も当時の状況はしっかり記憶に残っており、決して忘れることはありません。さて、今回は震災から5年という特集で、当時の状況などを振り返りつつ盛りだくさんの内容でお届けしました。まだまだ提供したい情報が順番を待っています！引き続き、NEXCO東日本の取組みについてPRしていきたいと思っておりますのでお気軽にお声掛けください。 広報課 伊藤